平成29年度　横浜市世界を目指す若者応援事業

（個人留学による帰国報告）

●氏名（在校学校名）

ＭＹさん

●留学先

国/都市：デンマーク/コペンハーゲン

外国の高校：Ｇｅｆｉｏｎ　Ｇｙｍｎａｓｉｕｍ

●留学期間

平成29年８月４日～平成30年７月２日

●留学先での活動、留学で学んだこと

私は、デンマーク王国の首都コペンハーゲンに約11ヶ月間滞在した。コペンハーゲンは首都であるが、お店は16時に閉まったり人口は約60万人と、日本での暮らしとは大きく異なっていた。

私の留学団体ではデンマーク内でのミニエクスチェンジがあり、シルケボーという人口約４万人の小さな町で１週間を過ごした。新たなファミリーと新たな土地で、首都だけでない他の地域の生活も体験することができた。コペンハーゲンの家庭では、デンマークの伝統的な料理を食べたり典型的な暮らしを体感したりできた。クラスでは、メディアを専攻するクラスに配属され、クラスメイトと一緒に短編映画や私の留学生の生活のインタビュー動画を作ったりした。修学旅行ではニューヨークへ行き、貴重な思い出をつくることができた。学年終了から帰国までの間、コペンハーゲンの日本食レストランでボランティアをし、国外で活躍する日本人の方と会い、たくさんのお話を聞かせてもらった。

私が一番興味深いと思ったのは、デンマーク国民の寛容さである。デンマークでは人生選択の自由度が日本と比べて圧倒的に高い。日本のような学歴社会ではなく、自分のやりたいことをやりたい時にやることが人生における幸せだと言う認識が国民に共通してある。私の留学の目的の一つに、デンマークが幸せな理由を自分なりに見つけるということがあったのだが、この人生選択の自由さは、確実に理由の一つであると思う。もう一つ私が発見したのは、コペンハーゲンには意外と異なる文化的背景を持った人が多いということだ。日本のメディアにより伝えられるデンマークは、移民に冷たい国というものだった。当時移民から高価な品を没収する法律が制定され、日本のサイトなどにも「幸せな国の本性」などと銘打って取り上げられていた。そんななか実際に行ってみると、私のクラスメイトの半数以上はデンマーク以外のバックグラウンドを持ってい

た。

　そこで私は、日本国内で知れる情報と実際に自分で足を運んで見れるものは全く違うのだと学び、より多くの国で生活をして現実を見たいと思うようになった。また、世界各国からきた留学生と深い関わりを持つことで、私の中で世界はより小さく身近なものとなり、私は日本国民である以前にみんな同じ人間で、地球市民であるということを実感した。その考えから、世界中にある格差に興味を持ち将来は開発学をはじめとした国際政治・経済を勉強したいと思っている。大学生になったら私の利用した留学団体の学生ボランティアになり、これから留学にいく高校生の支援をしたいと思っている。